プレカット特集―大手建材メーカー工場新設へ

新たなプレーヤーSCMをめざす

昨年、今年とプレカット工場の設備増強や新設が積極的に行われている。加工機械の更新期を迎えてることもあるが、大都市圏でのパワービルダーの高い需要などが直接の原因だ。それらに加えて、木造軸組住宅での資材供給の流れの中で、プレカット工場の役割が大きな影響力を持つようになってきたからだ。そのためシェアアップを図り競争力を高めようという動きや新システム導入による合理化やユーザーのビルダー・工務店、関連資材供給などとのネットワーク化を本格的に進めようという、供給拠点としての役割を作り上げようという動きだ。

特に木造住宅の供給拠点としての動きでは、住宅性能が厳しく問われる今、加工精度、集成材、構造計算などで性能を担保することで、プレカット工場のより積極的な取り組みが始まろうとしている。それは構造材・羽柄プレカット材の供給だけでなく、サイディングやボードのプレカット、各種資材の供給、各種工法、さらには部材、構造、地盤などの保証も付加してトータルな形での構造躯体、下地材を供給しようというものだ。まさにサプライチェーンマネージメント＝SCMの役割を目指す動きにも見える。

そうしたプレカット工場に求められる新たな能力の発生で、各種資材の流通も変わろうとしているが、そこに新たなプレーヤーがプレカット業界に登場してきた。新たな大手建材メーカーの進出である。そのパワーを持って何をしようとしているのだろうか。

トステムグループ・21世紀住宅研究所

4FCに金物工法プレカット供給 年間8000棟目標へ

アイフルホームやブライトホームなど、トステムグループの住宅フランチャイズを統括している㈱21世紀住宅研究所（富澤則夫社長）では、来年4月から傘下の住宅FC店に対して、プレカット部材の供給を始める。これまでプレカットの調達は各FC加盟店などに任されていたが、今後はトステムの生産部門でプレカットの生産を行い、それを21世紀住宅研究所から各FC本部を通じて各加盟店に供給していく計画であるという。工法も共通の金物工法に統一、「高品質を安価に供給していきたい」（21世紀住宅研究所・田口憲総務部長）としている。

具体的なプレカットの供給対象となるのはアイフルホーム、ブライトホーム、ゴーイングホーム、ワンダーホームの4FCだ。これまでブライトホームでは独自のRSメタルを使った金物工法を採用している他、アイフルホームでは在来軸組であったり、本部指定やFC店が使っているものを認定するなど対応がバラバラであった。これを4FC共通の設計仕様・金物工法に統一し、その金物とプレカットを一元的に供給していくというものだ。そのためプレカットの受注方法も21世紀住宅研究所が一括して行い、構造図の作成、木拾い、CAD入力も全て同社で処理する計画だ。トステムのプレカット工場はそのデータを受け取り加工のみを行うという。また構造計算のサービスも提供するほか、プレカット材は構造材だけでなく羽柄材の供給も行う。現在千葉にある工場で供給するプレカット材の加工品質、羽柄加工の状況をチェックしている最中だという。またCADの統一も進めていくようで、各FCでバラバラである意匠CADや積算ソフトなどについても統合化していく考えのようだ。

当初のプレカットの生産量や供給量は検討中ということで発表されていないが、今後3年間で4FCで供給する全てをトステム印のプレカットに切り替えたい考えだ。現在各FCの受注棟数はアイフルホームが6600棟、ブライトホームが700棟、ゴーイングホームが300棟程度であり、4FCでざっと8000棟内外の数字となる。1棟当たり30～40坪とすると、最大で年間で30万坪前後、月間で2万5000坪程度の生産キャパが必要となる。同社では、加盟店の意向を聞きな

がら当初の生産規模をどうするか決めたいとしている。ただ北海道と沖縄を除いて全国各地に供給できる体制が必要だとしており、生産を担当するトステムサイドも8工場程度の体制でスタートするのではないかと思われている。ただ当面は、加盟店側も既存の取引のあるプレカット工場とのつながりもありすぐには切り替えられないと見られ、また21世紀住宅研究所側でもCAD入力などの人材育成などに時間がかかることから、一挙に最大規模の供給とはならないだろう。ただプレカット工場として見た場合、生産能力の目標設定が明確にあるだけに、各地のプレカット工場にとっては気になる存在だろう。

21世紀住宅研究所は、トステムグループの住宅関連分野の戦略部門として

㈱21世紀住宅研究所
トステムグループの①住宅FC事業全体の戦略の立案、②事業計画および方針の策定と提示、③傘下の事業会社の経営監査、④グループシナジーの推進などをおこなう会社。また住宅FC事業全体の活性化を図り、さらに住宅FC事業会社群と建材事業会社群との間に立ち、それぞれの事業会社群の競争力強化を目指している。トステムグループの住宅事業の戦略部門だ。

一昨年発足。今回のプレカット事業への進出は、住宅品質に厳しい目が向けられる時代のFCとして、資材、工法を統一化し「良い品質を安価に供給」というFC本来の目的を果たしていこうというグループの理念に基づいたものだ。しかし、住宅市場はパワービルダーの伸張や新しい住宅供給システムの登場などで競争がますます厳しくなってきていて、既存の住宅FCのメリットが余り目立たなくなってきた。そんな状況の中で、新たにプレカット供給を握ることは、前段で述べたように新たな木造住宅の供給拠点を作りFC自体を再活性化せようという動きにも見える。加えて総合建材メーカーとして、トステムがプレカット生産に直接携わることで、新たな生産分野を獲得し一元的な各種資材の流れも構築できると見ているのではないか。今回のプレカットへの進出について、メーカーとしても8000棟分のスケールメリットは十分意識しているはずであるし、プレカットユーザーに対しても「在来に比べてもかなりメリットを出せる」としており、金物工法を在来工法と同等のコストで提供できるという自信を持っている感じだ。グループ内のFCへの供給だけにとどまるかどうかも注目されるところだ。

社寺仏閣対応の特殊仕様機

ニュープレカットHシステムを導入
加工時間短縮でコストの大幅低減を実現

社寺仏閣・一般建築の田辺建設（田辺勉社長）は、このほど木工機械メーカーの日高機械（日高明正社長）の開発支援を受けて国産初のスーパー木材加工機及び木彫機の2台を総額1億2千万円で三上工場に導入した。

同社は、今までにない効率的な事業の一環として、加工場から工場に切り換え、近代設備の充実に取り組み、モノを手加工していたのを機械化に換え、スピーディな作業環境に改善。従来熟練大工が手間をかけた仕事のノウハウをソフト化した。そうすることで採寸、切削等の加工、仕上げまでの工程をCADと制御装置で管理することにより、データのパソコン入力のみで角材を全自動加工できる作業の流れを採用、更に合理化する機械加工設備として、今回スーパー木材加工機の導入に踏み切ったもの。

スーパー木材加工機は、日高機械製ニュープレカットHシステム「H03104」田辺建設仕様に特定されるタイプ。社寺建築用、太角の加工や宮大工ならではの複雑な構造の継ぎ手、仕口加工ができるもの。繊細な加工が施せる。CADソフト面は京都・福知山コンピュータに開発を依頼しており、完成すれば、〝腕利きの宮大工以上の仕事が短時間加工で実現可能〟となる。

坪当たりの価格は、ヒノキやスギ等の国産材の〝オールムク・無節〟の超骨太構造材を使い、50万円・60万円・70万円コースの3タイプを用意。社寺建築の宮大工の技術を生かした本格的な最高級木造住宅づくりを低価格販売で提供する和風住宅建築の趣と、徹底した健康志向が最大の特長。今年は24棟の内、既に19棟を成約。機械導入後の生産UPにより、更に10棟の受注追加に取り組んでいる。